

いわて未来づくり機構 東北未来創造イニシアティブ作業部会の 実績報告・活動計画(28.7.22)

テーマ： 東北未来創造イニシアティブとの協働と人材育成道場の運営

座長：戸田 達史

担当機関：(株)岩手銀行

報告要旨

平成28年度は、平成25年度に活動を始めた実践型人材育成道場「未来創造塾」について、東北未来創造イニシアティブが事務局を担う、最後の未来創造塾となる。今年度の「第4期未来創造塾」のスケジュールは、8月28日に開講し2月5日に卒塾式となっている。塾生の募集は、7月1日から21日までとし、定員は16名（釜石・大槌8名、大船渡・陸前高田・住田8名）を予定している。

卒塾生の状況であるが、第1期生から第3期生総勢57名となっている（第1期22名、第2期21名、第3期14名）。卒塾生のネットワーク作りであるが、昨年11月27日には、気仙沼において卒塾生の集いと称し、岩手沿岸（釜石・大槌・大船渡・陸前高田・住田）の「未来創造塾」卒塾生と、気仙沼・南三陸で開催されている「経営未来塾」の卒塾生が一同に会し、交流を深めている。また、第2回目は、5月21日に釜石で開催し再び一同が会し、縦・横の連携も一層強まり、地域を牽引するリーダーとしての気概の醸成に繋がったと思料する。

1. 平成27年度の作業部会開催実績と検討内容等（アウトプット）

平成28年1月15日（金） <第5回東北未来創造イニシアティブ作業部会>開催

15時～16時30分 （1）参加者25名

岩手銀行釜石支店 （2）討議内容

- ①平成27年度（第3期未来創造塾）の活動報告
- ②平成28年度の未来創造塾について
- ③未来創造塾の卒塾生に対する支援の在り方について

（3）成果（アウトプット）

- ① 未来創造塾は、東北未来創造イニシアティブの豪華な講師陣だけで成り立つものではなく、現地にいる出向者の親身な伴走、塾生同士の相互触発と切磋琢磨、本気で人材育成に取り組む地域の関与があって成り立つものであるが、第3期を通じて、総じて塾は良かったと部会全員や地域から評価をいただいた。
- ② 釜石市では、未来創造塾の卒塾生が中心となって、「釜石よいさ」という市内の祭りの運営、「釜石〇〇会議」といった市民創発型の地方創生先行型事業の運営も担い、市民がまちづくりに参加する際の中心となっている
- ③ 大船渡市では、起業や事業拡大、販路開拓などを検討している方を対象として、事業計画立案、マーケティングなどの基礎知識や座学や実務講座で学ぶ「第3期大船渡なりわい未来塾」を1月30日に開講。
- ④ 釜石商工会議所では、未来創造塾の卒塾生に対するサポートを行っている。具体的には、卒塾式で行われるスピーチおよび事業構想の内容をチェックし、独自にサポート方法を検討しアプローチを行っている。

2. 平成27年度の活動に係る成果と課題等の評価（アウトカム）

平成27年度事業計画	平成27年度事業実績・成果・課題																									
<p>(1) 第3期未来創造塾</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年5月17日（日） 第3期「未来創造塾」開講式 ※11月までの半年間のプログラムで運営 平成27年6月～10月 第3期「未来創造塾」の運営 ※右記セッションに加え、 <ul style="list-style-type: none"> グループメンタリング（月数回） 個別伴走（10月中旬から卒塾式前日リハーサルまでは毎週実施） 平成27年11月15日（日） 第3期「未来創造塾」卒塾式 	<p>初めて、大船渡会場にて合同開催 総勢16名の塾生（うち女性2名）が参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域別には釜石6名、大槌1名、大船渡6名、陸前高田2名、住田町1名 属性別には起業家（創業、法人成り含）4名、既存事業者のうち第二創業（新事業）4名、事業拡大・再構築8名 <table border="1" data-bbox="695 640 1414 958"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>セッション</th> <th>講師企業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6/6・7</td> <td>経営と会計</td> <td>日本政策投資銀行</td> </tr> <tr> <td>6/27・28</td> <td>リーダーシップ</td> <td>NPO法人アイ・エス・エル</td> </tr> <tr> <td>7/11・12</td> <td>事業構想の発表</td> <td>監査法人トーマツ</td> </tr> <tr> <td>7/25・26</td> <td>成長戦略</td> <td>マッキンゼー・アンド・カンパニー</td> </tr> <tr> <td>9/12・13</td> <td>マーケティング</td> <td>博報堂</td> </tr> <tr> <td>10/10・11</td> <td>中間発表</td> <td>監査法人トーマツ</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 3期より、監査法人はトーマツに加え、あずさ、PwC あらた監査法人が参加。 14名によるスピーチと事業構想プレゼン</p> <table border="1" data-bbox="695 1093 1414 1272"> <tbody> <tr> <td>成果</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 14名のリーダー輩出、意欲的な事業構想の発表 卒塾生の構想実現に向けた歩み<別紙> </td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 塾生募集（定員24名から16名へ縮小） 地域の関与（塾への参加、卒塾生のフォローアップ） </td> </tr> </tbody> </table>	開催日	セッション	講師企業	6/6・7	経営と会計	日本政策投資銀行	6/27・28	リーダーシップ	NPO法人アイ・エス・エル	7/11・12	事業構想の発表	監査法人トーマツ	7/25・26	成長戦略	マッキンゼー・アンド・カンパニー	9/12・13	マーケティング	博報堂	10/10・11	中間発表	監査法人トーマツ	成果	<ul style="list-style-type: none"> 14名のリーダー輩出、意欲的な事業構想の発表 卒塾生の構想実現に向けた歩み<別紙> 	課題	<ul style="list-style-type: none"> 塾生募集（定員24名から16名へ縮小） 地域の関与（塾への参加、卒塾生のフォローアップ）
開催日	セッション	講師企業																								
6/6・7	経営と会計	日本政策投資銀行																								
6/27・28	リーダーシップ	NPO法人アイ・エス・エル																								
7/11・12	事業構想の発表	監査法人トーマツ																								
7/25・26	成長戦略	マッキンゼー・アンド・カンパニー																								
9/12・13	マーケティング	博報堂																								
10/10・11	中間発表	監査法人トーマツ																								
成果	<ul style="list-style-type: none"> 14名のリーダー輩出、意欲的な事業構想の発表 卒塾生の構想実現に向けた歩み<別紙> 																									
課題	<ul style="list-style-type: none"> 塾生募集（定員24名から16名へ縮小） 地域の関与（塾への参加、卒塾生のフォローアップ） 																									
<p>(2) 卒塾生へのアンケート実施 対象アンケート者数：41人</p>	<p>【事業構想具現化状況】 事業構想書の具現化は34%（14人）、具現化中は54%（22人）、具現化断念5%（2人）、事業構想の変更7%（3人）となっている。</p> <p>【具現化にあたって、サポートの要望】 マーケット情報の提供22%、専門家紹介（派遣）19%、補助金紹介13%、各相談機関・研究機関への取次ぎ12%、融資等のファイナンス9%、販売先の紹介3%、その他22%となっている。その他としては、「話を聞いて頂ける場がほしい」など。</p>																									

3. 平成28年度の活動計画

(1) 目標・出すべき成果

- ①東北未来創造イニシアティブが事務局を務める最後の「第4期未来創造塾」を開講し、入塾者全員について地域をけん引するリーダーとして卒塾させる（公募予定人数16人）
- ②卒塾生のフォロー体制について、各地域で整備されている。

(2) 活動計画

①第4期未来創造塾の運営

開講式：8月28日（日）

各セッション：日本政策投資銀行、ISL、監査法人、マッキンゼー&カンパニー、博報堂

卒塾式：2月5日（日）

②卒塾生のフォロー

公的事業等を活用し、新商品・サービスの開発、既存商品の高付加価値化、生産性向上・効率化のサポートを行っていく。

③作業部会の開催

7月、11月、2月に開催予定。

被災地経営者 悩み共有

未来創造塾 釜石で卒業生集い



大山健太郎塾長（右）のアドバイスに聞き入る卒業生

若手経営者らを対象にした人材育成道場「未来創造塾」の卒業生は21日、釜石市大町のホテルサンルート釜石で「卒業生の集い」を開き、実際の経営に携わる中での悩みや近況を語り合った。

釜石市や大船渡市、気仙沼市などから卒業生約50人が参加し、塾長の大山健太郎アイリスオーヤマ社長や東北大学大学院の大滝精一教

授らを囲んだ。

参加者は社員教育の在り方やビジネスパートナー選びなど、経営に携わる中で悩みに対するアドバイスを求めた。大山塾長は「ビジネスチャンスは信頼できる人同士の交流の中から生まれる」と、卒業後も地域の枠を超えた仲間との交流の大切さを訴えた。

同塾は経済同友会や東北大などが進める東北未来創造イニシアティブが東日本大震災の被災地の経営者育成を目指す。2013年から始めた。釜石市や大船渡

市、気仙沼市などで開講し、これまで約120人が卒業。日本を代表するコンサルティング会社や監査法人から講師を招いている。釜石・大船渡地区では8月からの最終回となる第4期の塾が開講する予定だ。

地方創生を力強く

地域の枠超え交流

未来創造塾 釜石で卒業生の集い

東日本震災の被災地で産業復興を担う地域の人材を育てる「未来創造塾」の卒業生の集いは21日、釜石市のホテルサントピア釜石で開かれた。釜石市や大船渡市、気仙沼市などから卒業生50人余りが参加。塾長を務める東北ニュービジネス協議会長の大山健太郎アイリスオーヤマ社長ら多頭が、企業経営で直面する悩みに多語の会、課題を共有しながら交流を深めた。

卒業生の集いは昨年11月の気仙沼市に続いて2回目。実行委員長の青木健二さん（青紀士木専務）は「東北の明るい光をつくるため、勇気や力を持ち帰りたい」とあいさつ。野田武則市長は「みなさんがまちづくりの主力。地域のリーダーとして頑張ってもらいたい」と期待を述べた。

大山塾長は「ビジネスチャンスは信頼でき

る人同士の交流から生まれる。地域の枠を超えた卒業生の交流が長く続くこと。これが未来創造塾の一番の目的だ」と強調した。

東北大学大学院の太田精一教授が「復興と地方創生をけん引する新しいリーダー像」と題して基調講演。「地方公共団体、民間NPOなどの垣根を越えた若い世代のリーダーの連携が地方創生のパワーを生み出すこと訴えた。

このあと大山塾長らを囲んでグループ討議を行い、卒業生らがそれぞれ近況を報告し、社員教育の在り方やビジネスパートナー選び、起業 人手不足などについて相談。経営危機を何度も乗り越え、ピンチをチャンスに変えてきた大山塾長が的確にアドバイスした。

同塾は経済同友会や東北大などが産学官連携で被災地再生を支援する東北未来創造イニシアティブなどが主催し、2013年からス

タートした。トーマス・マッキンゼー、博報堂など日本を代表する監査法人やコンサルティング会社から講師を招き、釜石市、大船渡市、気仙沼市などで開講。これまでに若手経営者ら約120人が卒業している。釜石・大船渡地区では8月から最終回となる第4期の塾が開講する予定で、7月から塾生を公募する。



塾長の大山健太郎アイリスオーヤマ社長のアドバイスに耳を傾ける卒業生ら